

小学校第6学年 国語科 学習指導案

期 日 平成25年10月4日(金)第5校時
 場 所 玉名市立小天小学校 6年生教室
 指導者 教諭 藤野 亮

1 単元名

ものの見方を広げ、感じたことを表現しよう

「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、わたしはこう見る」(光村図書)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の内容(B書くこと)ウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」(C読むこと)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたにすること。」を受けて設定してある。

本教材「『鳥獣戯画』を読む」は、12世紀に生み出された「鳥獣人物戯画」の一場面について、高畑勲氏がアニメーション映画の監督の視点で書いている説明的文章である。記述の特徴は、筆者の絵の正確な観察をもとにして、絵の解説(事実)と評価(感想・意見)が繰り返し述べられていることである。また、体言止めや語りかけるような言い回し等、表現技法や文章の構成が工夫されており読者を引き込むような書きぶりである。

そこで、絵と文章を照らし合わせながら読むことで、筆者の着目点やそれに対する評価、表現の仕方に気付かせていく。また、「この絵、わたしはこう見る」を組み合わせ、作品の紹介文を書く活動を並行して行うことで、筆者の着目点や評価、優れた表現を模範にし、事実と感想・意見を区別してかんたに書いたりする力を高めていく。

(2) 系統観

第5学年(11月)	第6学年(5月)	第6学年(10月) 本時	第6学年(1月)
説明の仕方について考えよう 天気を予想する グラフや表を引用して書こう B書くこと (1)ウ C読むこと (1)ウ	文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう 感情・生き物はつながりの中に C読むこと (1)ウ	ものの見方を広げ、感じたことを表現しよう 『鳥獣戯画』を読む この絵、わたしはこう見る B書くこと (1)ウ C読むこと (1)ウ	言葉について考えよう 言葉は動く 自分を見つめ直して B書くこと (1)ウ C読むこと (1)ウ

(3) 児童観

○本単元のねらいに関する実態(7月末での調査結果31名)は以下の通りである。

○下表の調査項目「1」「2」「3」は、5月実践の「生き物はつながりの中に」の単元テストを基に分析したものである。「4」「5」は、図画工作の授業(鑑賞)において、「作品のよさを紹介する」という観点で調査した結果である。

調査項目		達成・概ね達成
1	読 筆者の感想・意見を押しさえることができる。	77.4%
2	む 事実と筆者の感想・意見を分けてとらえることができる	32.3%
3	筆者の書き方の工夫に気づくことができる。	83.9%
4	書 ある事実を根拠とし、それに対する感想・意見を書くことができる。	51.6%
5	く 表現の仕方を工夫して、自分の考えを書くことができる。	45.2%

○「1」「2」の結果から、筆者の感想・意見は読み取ることは概ねできるが、その根拠となる事実を押しさえることができる児童は少ないことが分かる。また、「4」の結果からも、事実と感想・意見を区別したり関連

付けたりして考える力がまだ身に付いていないことが分かる。

○「3」「5」の結果から、筆者の書き方の工夫については意識して読んでいるものの、自分の考えを書くときに、新たに学んだ表現の仕方を十分生かしていないことが分かる。

(4) 指導観

- 単元を貫く言語活動として「自分が選んだ作品のよさを紹介する」ことを設定する。そして、自分が好きな日本の絵や絵巻物の紹介文を書いて、学習発表会や授業公開日において地域の方々に見てもらえる場を設定することにより、児童が目的意識や相手意識を持って主体的に学習に取り組めるようにする。
- 単元の導入では、俵屋宗達の「風神雷神図屏風」の紹介文を提示し、よさを紹介する絵の見方（絵のどこに着目→事実を取り出す→評価）に気付かせる。このことにより、「筆者の高畑勲さんが、どんな着目点で事実を取り上げ、どう評価しているのか。」という読みの視点を与え、本教材を読ませたい。
- 第2次の「読む」と第3次の「書く」ことを結び付けるため、第2次の授業においても、その時間に学んだ筆者の着目点やその評価の仕方、表現の仕方等を参考にしながら、自分が選んだ作品のよさを紹介する文章を書く活動を取り入れる。
- 筆者の評価（感想・意見）が分かる言葉にサイドラインを引き、その評価が絵のどの事実を基に行われているかを考えさせることで、事実と感想・意見を関連付けて考える力を身に付けさせる。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
<p>【視点1】 児童の思考力・判断力・表現力等を育成するために、単元を貫く言語活動を設定し、児童同士の学び合いを基盤とした豊かなかわり合いのある双方向型の授業づくりを目指す。</p>	<p>【視点2】 学習評価と指導の改善を図るために、身に付けた力を複合的に活用できる課題解決型の学習を取り入れ、思考力等を評価するための評価指標を工夫し、思考の過程を評価できる授業づくりを目指す。</p>	<p>【視点3】 情報活用能力を育成するために、ICT機器の効果的な活用を図るとともに、目的に応じて必要な情報を取捨選択するなどの主体的な情報活用を促す授業づくりを目指す。</p>

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	<p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。</p> <p>○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。</p>
-------	---

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「自分が選んだ作品のよさを紹介する」言語活動を通じた指導			
<p>①日本の絵画や絵巻物に興味を持ち、課題解決のために図や文章を読もうとしている。</p> <p>②作品のよさを伝えようとしている。</p>	<p>①目的に応じて事実と感想・意見を区別して書いている。</p> <p>②目的に応じて書き出しや文末表現等を工夫して書いている。</p>	<p>①事実と感想・意見などとの関係を押さえている。</p> <p>②筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているかをとらえている。</p>	<p>①文末表現や助詞の使い方などに着目して読み、語句と語句との関係を考えて、自分の表現に用いている。</p>

4 指導・評価の計画（9時間取扱い 本時4／9）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価基準（評価方法） B基準
1	1 ・ 2	○「鳥獣戯画」の1枚目を鑑賞して感想を交流する。 ○教師が作成した「鳥獣戯画」の紹介文を事実と感想・意見に分類する。 ○「自分が選んだ作品のよさを地域の人々に伝えるための紹介文を書く」という学習のゴールを知り、学習計画を立てる。 ○「『鳥獣戯画』を読む」の段落構成を考え概要をとらえる。	・教師が作成した紹介文を読み、事実（絵の解説）と感想・意見（筆者の評価）から成り立っていることを押さえる。 ・複数の日本絵画や絵巻物の写真を提示し、紹介文を書きたい作品を選ばせる。また、自分が書いた紹介文は地域の人々に公開することを告げ、相手意識を持たせる。 【視点1】指導事項を意識化させるとともに、単元を貫く言語活動を理解させる。 ・説明文の学び方を確認するとともに、既習事項を生かし教材文の段落構成を考える。	関心・意欲・態度①（発言） 日本の絵画や絵巻物に興味をもち、事実と感想・意見を考えながら、教師が示した紹介文を読もうとしている。
2	3 ・ 4 (本時)	○絵（第3時は1枚目の絵、第4時は2枚目の絵）と文章を照らし合わせながら読み、筆者の着目点とその評価について考えを出し合う。 ○自分が選んだ作品を学んだ着目点で評価する。	・事実（絵の解説）と感想・意見（筆者の評価）の関係を押さえる。また、筆者の着目点（第3時は色・形・線等、第4時は動き・ポーズ・音等）を押さえる。 【視点1】グループで互いの考えを確かめ合い評価する学び合いを通して、思考力等を高める。	読む能力①（ノート） 筆者の評価が、色、形、線、変化、音、ポーズ、表情等に注目して行われていることをまとめている。
	5 ・ 6	○筆者が一番伝えたいことが表れている文章をさがし、その表現技法や文章構成の工夫について考えを出し合う。 ○自分が選んだ作品で、一番伝えたいことをどう表現するかを考える。	・「鳥獣戯画」を「人類の宝なのだ」とまで評価する根拠（事実）を探し、筆者の思いに迫らせる。 ・漫画やアニメを例示した意図を考えさせる。 【視点1】自分が選んだ作品の紹介文をグループで読み合い、改善点を指摘し合うことで、思考力等を高める。 【視点2】ノートに事実と感想・意見を関係付けてまとめさせ、思考過程の可視化を図る。	読む能力②（発言・ノート） 筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているかをとらえている。 書く能力①（ノート） 目的に応じて事実と感想・意見を区別して書いている。
3	7	○学んだ表現技法や文章構成の工夫を生かし、第3時、第4時に書いた文章を見直す。 ○自分が選んだ作品で、書き出しの工夫の部分を書く。	・表現技法や文章構成を工夫していない場合を例示し、比較して考えることで、その効果を実感できるようにする。 【視点2】書き出しや表現技法の工夫を生かした紹介文を書かせ、児童の理解度や進捗状況を確認する。	書く能力②（ノート） 書き出しや文末表現を工夫し、読み手を引きつけるような文章を書いている。
	8 ・ 9	○自分が選んだ作品のよさを伝える紹介文を書きまとめる。	・第2次において、授業のまとめで書いてきた作品を評価した文章を整理し、作品のよさを紹介するために必要な情報を取捨選択させる。 ・文章全体を見直し、書き加えたい文章や表現の仕方がないか考える。 ・書いた紹介文を発表し合い、感想を交流する。 【視点3】必要な情報を選んで、拡大提示装置を用いながら、自分が選んだ作品のよさを紹介させる。	関心・意欲・態度②（ノート） 自分が選んだ絵のよさを伝える紹介文を書こうとしている。

5 本時の学習

(1) 目標

2枚目の絵と文章を照らし合わせることで、筆者が絵の何に着目して、どう評価しているのか読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 (1) 前時の学習をふり返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○高畑さんは、1枚目の絵のどこに着目していましたか。 ○2枚目の絵において、高畑さんの着目点と評価の仕方を考えましょう。	○筆者の着目点と評価の仕方を学び、自分の紹介文作りに生かそうとする意識を持たせる。	絵の拡大コピー
高畑さんは、2枚目の絵の何に着目し、どう評価しているのだろうか。				
展開 33分 (10)	2 学習課題について話し合う。 (1) 互いの考えを出し合う。	○高畑さんの評価が感じられる言葉はどれか、グループで話し合ひましょう。 ○話し合ったことを発表してください。	○筆者の評価が感じられる言葉を検討させる。 ○グループで出し合うことで、一人学びでは見つけられなかったところを補うようにする。	教材文
(8)	(2) 筆者の着目点を考える。	○この評価は、何に着目して評価しているのですか。文には何と書いてありますか。	○筆者の着目点を、「変化」「音」等のキーワードでまとめていく。	
(8)	3 自分が選んだ絵のよさを紹介する文章を書く。 (1) 新たに学んだ着目点で絵のよさを紹介する文章を書く。	○今日学んだ着目点で、自分が選んだ作品を評価してみよう。	○筆者の着目点、事実と感想・意見の述べ方を参考にして、自分が選んだ絵のよさを紹介する文章を書かせる。	作品の 写真 ワーク シート
<p>【言語活動】 単元を貫く言語活動として設定した「自分が選んだ作品のよさを紹介する」ことを通して、事実と感想・意見を関連付けて読み取るという指導事項を指導する。</p>				
(7)	(2) 友達の紹介文を読み、そのよさを伝え合う。	○同じ絵を選んだ児童同士で紹介文を読み合ひ、友達の紹介文のよさを付箋に書きましよう。	○事実の取り出し方や評価の仕方よさを付箋に書き、友達と交換させる。	付箋
整理 7分 (5)	4 課題について考えをまとめる。 (1) 絵に対する筆者の着目点と評価に対し、自分の考えをまとめる。	○高畑さんの着目点と評価をどう思いますか。あなたと高畑さんの、絵の見方や感じ方を比べてノートにまとめましよう。	<p>読む能力①（ノート） B基準 筆者の評価が、変化、音、ポーズ、表情等に着目して行われていることをまとめている。</p> <p>A基準 筆者の着目点と評価について、自分の絵の見方や感じ方と比べながら感想・意見を述べている。</p> <p>〈B基準に達しない児童の手立て〉 板書を参考にして筆者の着目点をふり返り、評価について児童と一緒にまとめる。</p>	ノート
(2)	(2) 学習のまとめをする。	○次の授業では、高畑さんの表現方法や文章構成の工夫を調べましよう。		